

Title	ワークショップ「異言語環境で日本の小説を読む」－ 葉山嘉樹『セメント樽の中の手紙』－発表資料
Author(s)	金, 香花
Citation	多言語翻訳 : 葉山嘉樹『セメント樽の中の手紙』. 2013, p. 58-58
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/61317">https://hdl.handle.net/11094/61317</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

2015年2月13日

## ワークショップ

「異言語環境で日本の小説を読む：葉山嘉樹『セメント樽の中の手紙』」  
発表資料

金 香花

### ○翻訳する際に難しかった点

計量単位や設備に関する固有名詞などを訳すのが少し難しかったと思います。（「才」、  
「セメント」、 「量りこむ」等）

### ○先行の翻訳と自分の翻訳との違い（工夫した点や留意した点など）

とくに以下の2点を留意しました。

- ① 登場人物の言葉使いの訳し方に注意しました。日本語の本文から想起される印象が、翻訳した中国語の文章においても伝わるようにするためです。とくに、日本語における男女での言葉の差に留意しながら、翻訳を行いました。
- ② 計測などに用いられる単位など、細かい所までできる限り、原作に忠実に翻訳しました。また、原作の雰囲気や伝わるように努めました。

### ○翻訳対象言語において、この作品は問題なく受け入れられるかについて

訳す際に、難しい言葉より通常よく使われる言葉を選び取りました。おそらく普通に理解してもらえらると思います。

### ○この作品が、日本の高校の教科書に掲載されていることについて

高校生は、ある程度自己認識ができる年頃であると言えますが、それでもなど未成年で、思想などの面ではまだまだ影響を受けやすいと思われます。『セメント樽の中の手紙』には女工の恋人がクラッシャーの中へ落ち込み、砕かれ、セメントになってしまうシーンが描かれており、教科書に載せて大丈夫だろうかとも感じました。